

Gallery 川戸藤枝 愛海詩 作品展

日本刺繍(岩見沢市) 川戸藤枝 作品展

～心の豊かさを引き寄せる～

10月18日～10月30日

彩遊の号 No.45
愛海詩の会 会報
令和4年10月10日発行
編集発行人/ギャラリー愛海詩 佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予約をお手数ですがお電話下さい。



創作中の川戸藤枝氏

二十四周年に寄せて

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会はこの秋、二十四周年を迎えました。思えば、渺茫たる大海に小舟で漕ぎ出したような始まりであったことは、文化の広さ、深さを思えば宜なるかな...と思えます。会員諸氏、お支えいただいている皆さまに心より感謝申し上げます。

多くのひととの関わり合いの中で学び、教えられました。背中を押してくれる人、手を引いてくれる人、信じてくれる人、思いに共鳴してくれる人、そんな人達がその時々々に文化の灯りとなり、照らし合い、あるいは消され、消してもまた灯りと、繰り返して、繰り返して、留まることなく濁ることもなく、皆さまに励まされ、助けられ、支えられてここまで来たように思います。人との佳き出会いの中に、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会はあり、これからもあり続けることを、この節目を振り返り、静かに思っております。

人は何時も変化の中にありますが、変わらない思いがギャラリー愛海詩・愛海詩の会にはあります。三本の柱です。一つ、文化的働きをして。北海道に貢献する。二つ、職人、作家の特技を大切に。三つ、人々の生活を豊かに彩るお手伝いをする。今後もこの三本の柱を見失わず、進んで行こうと思えます。

来年は二十五周年、今までの「愛海詩の会」を引き継ぎ、新たに「一般社団法人・愛海詩」として、前進させていただきます。法人としての愛海詩は、今からその舟出の準備を進めております。これからも皆様の陰に陽にお支えをいただけますよう、私共も励みます。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

北海道は日本の北の果てであるのだけけれど、私は、先人の方々による働きを頂き、繋ぎ、人の思いが咲く、きつと、強く美しい華々が咲く大地となることを信じ続けているのです。

(佐藤睦子)

プロフィール	
昭和35年	生まれる
平成6年	故 打越幸子氏に師事
平成12年	日本刺繍の教室「すずめの会」主宰
平成16年	「すずめの会」教室作品展開催 (以後隔年で開催)
平成20年	個展開催 (札幌・紀伊國屋書店)
平成29年	日本刺繍の講座開講 (札幌・ヴォーグ学園) (令和2年開講)
令和3年	新札幌デュオカルチャースクール講座開講

「ご挨拶」 作品展によせて

再び、ギャラリー愛海詩にて、私の創りました作品を皆さんに見ていただけたというところがうれしく、感謝の気持ちであります。

私には作品に対する思いがなかなか言葉に言い表すことができないところがございます。ただ、作る事、糸を刺す事に喜びを感じていたりします。刺繍をしている時に、最近よく思うのは、桜を繙つていけばお蚕がその桜に生まれ変わるよう、菊を繙つていけば菊に生まれ変わるよう。そんな願いに近い気持ちで刺繍するようになってきました。それは、日本刺繍を習い始めた頃、先生によく言われた「絹糸はお蚕の命を頂いているのだから大切に...」という言葉思い出されます。

自分の人生の残された時間を考えると、益々気合を入れて作らねば、と思うのですが、なかなか。果てない道のりであるようです。できるだけ多くの皆さんに、私の日本刺繍を見ていただくことができますようお願いいたします。ご高覧下さいませ。

お知らせ

川戸藤枝氏が作品展中、下記の通りギャラリーにあります。作家との交流もしていただければ幸いです。

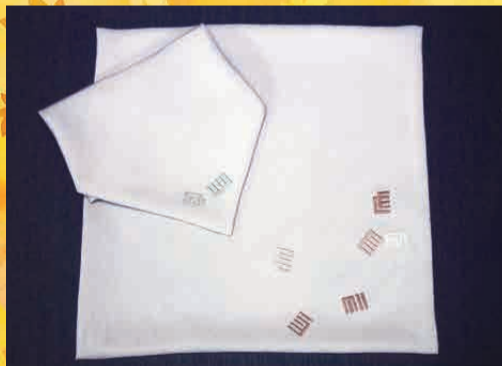
- 10月21日(金)、22日(土)、23日(日)
- 各日13時30分～17時まで。

北海道には珍しい日本刺繍を川戸氏は自身の流儀とも照らし励んでおります。こまやかな日本刺繍や、作品から伝わるものは、作り手と語ってこそ、ということがございます。



クッションカバー (横59cm×縦30cm)

深紫の濃淡が、控えめな色使い。光のプリズムによって表情を変えます。美しい牡丹は心に持つ花のようでもあります。花卉の揺らぎは日常を豊かに彩ってくれるかのようです。



包袱紗(源氏香) (横34cm×縦34cm)

時代を越えて行く、すっきりとした柄は人間模様を写し出した「源氏物語」にも通じます。時を測る物差しを幾何学的に描いた模様には心惹かれるものがあります。角と直線、さりげなく技が光ります。



掛袱紗(菊) (横27.5cm×縦29.5cm)

菊の花弁1枚、1枚の線の流れから、芳しい香りが漂ってくるようです。色のグラデーションも品よく纏まっています。何か大切な物の上に掛けて雅さを愛でてください。



お宮参り着 着丈95cm

葉玉を衣装化したデザインで黄朽葉の美しい色によく映えています。邪気を祓い、健やかである事を祈るかのように美しい刺繍が施されています。お宮参り着としてだけではなく、タペストリーとして飾っても楽しめます。他に色、柄違い、2枚あり、いずれも見応えがあります



香袋(小) (横4cm×縦3.5cm)

四季を写しとった、おしゃな香袋、自分流に刺繍と香りを楽しんでいただきたく思います。つい、複数個、側におきたく、使いたくなります。京都の「うつ蟬香・誰が袖」の香りが郷愁を誘います。



お宮参り用ベベ掛け (横23cm×縦20cm)

可愛らしいベベ掛け、お子のお顔もきりりと美しく映えそうです。その時の為に用意しておいたり、プレゼントに遣ったり、思い出にも残る大切にしたい品です。



古帛紗 (横15.5cm×縦15cm)

ステッチの変化により、「藤」の表情をよく捉えた作品です。茶道に使う古帛紗ですが、愛らしい品の敷物にしたり、額に入れて飾っても素敵です。古帛紗は他にも出展致しますが、お気に入りの手のひらサイズの作品に出合ってください。



スマホケース 横15cm×縦9.5cm×巾2cm

約2年前からの「このスマホケースを作りたい、日常に優雅さを...」という思いが結実した作品です。試行錯誤を重ね、納得のスマホケースでもあります。側において使いたい逸品です。

毎週木曜日、FMラジオカロス札幌78.1MHz、午前11時から約1時間、ギャラリー愛海詩・佐藤がラジオ生放送させていただきます。文化を伝え、職人・作家の手仕事を応援する番組です。リスナーラジオのアプリでも聞くことができます。(土曜日午前11時から再放送) どうぞお聞き下さいませ。

今、川戸氏の日々は時間追われているようです。そんな中でも一つ一つ、作品を創り上げ、動と静の時間を持ち前のパランス感覚で上手にこなしてまいります。作品を創ることには誠実に向き合っております。日々、絹糸に語りかけつつ、針を進めている様子が窺えます。

この一針、一針が創り出す日本刺繍の美しい作品、側に寄せて日常に心豊かな時をいただけて下されば...と思えます。どうぞ拝見下さいませ。